

## これって拘束??

～センサーマットの使用について～



特別養護老人ホーム 丸子の里  
介護職員: 渡邊 健太  
良知可奈子

1

## <このテーマにした理由>

身体拘束をゼロにするための取り組みの中で、センサーマットが導入されてきた。。。

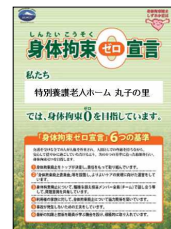
「センサーマットは拘束ではないよね」



「センサーマットを拘束としている施設もあるんだ!」



「センサーマットの使用方法について、考えてみよう!!」



2

## <具体的な取り組み>

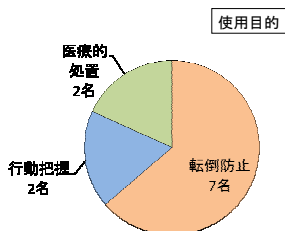
### ① センサーマットの使用状況を調べる

H26年3月末時点

4階...7名使用

5階...4名使用

合計 11名使用



3

## <具体的な取り組み>

### ② チェック表を作成し、データをとる

☆ 4階では、センサーチェック表を作成する

ご利用者名

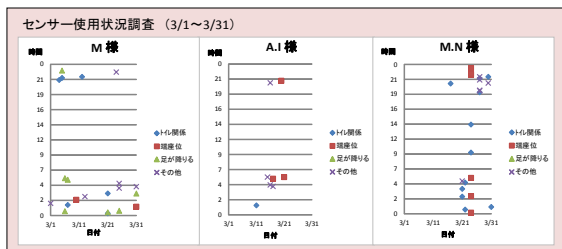
反応時刻  
状況など

4

## <具体的な取り組み>

### ② チェック表を作成し、データをとる

☆ 5階では、センサーチェック表をもとにグラフを作成する



5

## <具体的な取り組み>

### ③ チェック表の結果等を参考に対象者を2名にしぼる

※対象者(センサーマットをはずしていく試みを行う御利用者)を2名にした理由



◎4階...転倒のリスクはあるが、意思疎通が可能であり医療的処置のないご利用者を選んだため

◎5階...他の方法やご利用者の体調変化でM様以外の3名はセンサーマットが不要になったため

6

## <具体的な取り組み>

### ③ I 様とM 様の情報

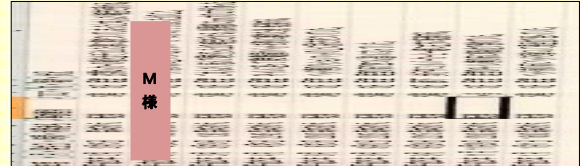
	4階 I 様	5階 M 様
性別	女性	女性
年齢	92歳	90歳
介護度	4	2
日常生活自立度	II b	II b
意思疎通	可	可
既往歴	大腿部頭部骨折	両膝変形性関節症, 変形性腰椎症
日中の移動方法	つきそい歩行	車椅子(自操可)
夜間の排泄方法	ポータブルトイレ使用	ポータブルトイレ使用
転倒事故件数	ヒヤリは多数	H25年4月～H26年3月末で9件
センサーマット使用理由	過去に転倒による大腿部頭部骨折があり、ふらつきが非常に強い	夜間帯に転倒に関する事故が多いため(資料1参照)

7

資料1

## <具体的な取り組み>

### ③ M 様の転倒事故 (H25年4月～H26年3月)

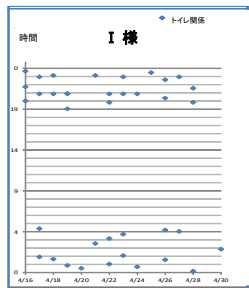


丸子の里 事故対策委員会データより

8

## <具体的な取り組み>

### ④ I 様について、チェック表でセンサーの反応時刻と状況を記録する



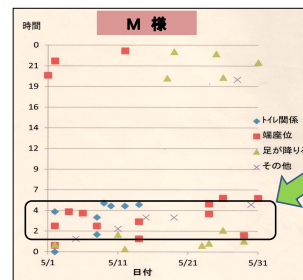
- ・約2時間おきにセンサーが反応している
- ・トイレ関係の理由で起きている



9

## <具体的な取り組み>

### ④ M 様について、チェック表でセンサーの反応時刻と状況を記録する



- ・センサー反応時刻が朝方に集中している
- ・トイレ関係の理由が多い



10

## <具体的な取り組み>

### ⑤ 記録をもとに対策を実行する

	4階 I 様
記録からわかったこと	・トイレ以外に夜間起きてくることがなかった。 ・センサーマットの間隔が約2時間おきにあった。
対策	ナースコールを押していただけるように説明を行う。 センサーマットを併用して2時間おきのトイレ誘導を行う。
結果	ナースコールを押して下さることは殆どなかった。 0時以降は誘導の声かけに対して拒否があった。
対策	臥床後より0時までは2時間おきの誘導。0時以降は3時間おきに誘導する。
結果	誘導を行ってもセンサー反応があり、自分のタイミングでトイレに行かれることがあった。日中、ふらつきが多く見られるが夜間のトイレ時にはふらつきが少ないという意見が職員から聞かれた。
対策	夜間の誘導を行わずセンサー反応時トイレの様子を見守り転倒のリスクがあるか観察を行う。

11

## <具体的な取り組み>

### ⑤ 記録をもとに対策を実行する

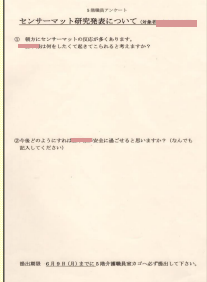
	5階 M 様
記録からわかったこと	・センサー反応時刻が朝方に集中している ・トイレ関係の理由が多い
対策	下肢筋力の低下による立ち上がりのリスクと排泄に対する本人の強い心配をふまえ、夜間帯のみのオムツを着用を提言。
結果	それでもセンサー反応あり。
対策	5階の職員にアンケートを配布し、どうしたら良いか対策を皆で考える。(資料2参照)
結果	センサー反応時に衣類整理をしていることが多いので、居室の環境を整えて、M様が暮らしやすいようにしたらどうか、との意見多数あり。
対策	「今までの生活習慣を大事にしていきたい」という目的で、タンスの位置を変える等、居室環境を整備する。(資料3参照)

12

資料2

## ＜具体的な取り組み＞

### ⑤ 5階の職員に行ったアンケート



1. M様が起きる理由は？

- ・トイレに行きたい
- ・着替えたい
- ・身支度や整容をしたい

2. どうすればM様が安全に過ごせるか？

- ・ものをM様が取りやすい位置におく
- ・タンスの位置を変え、扱いやすいものにする
- ・転倒をしないよう、環境を整える(整理整頓)

13

資料3

## ＜具体的な取り組み＞

### ⑤ M様の居室環境

変更前



変更後




14

## ＜取り組みの結果＞

4階 I 様	5階 M 様
<p>現在、ふらつきなくトイレに行かれています。 しかし、日中のふらつきや過去の転倒を考慮すると、転倒リスクは非常に高いため、センサーマットを外さず観察を継続している。</p>	<p>居室環境変更後、夜間に着替えや衣類整理等をしていることはあるが、常にベッド上で過ごされ、現在まで転倒等の事故は起きていない。  (センサーマットは居室環境変更時より使用していない)</p>

15

## ＜取り組みの評価＞



センサーマットとは・・・


- ◎漫然と長期に渡って使い続けるものではない
- ◎ご利用者を転倒させない為の単なる道具ではない  
(スピーチロック等の行動抑制につながる危険をはらむ)
- ◎ご利用者の行動パターンを知り、次のケアにつなげるための一時的な手段、ツール
- ◎目的をもった利用をしなければならない  
(利用理由、利用期限、代替方法を検討)

※『利用』の言葉の意味：物の機能・利点を生かして用いること


16

## ＜今後の課題＞

- ☆『センサーマット利用状況確認表』の作成
- ☆定期的な検討会の開催
- ☆全職員の意識改革、勉強会



「センサーマットは拘束じゃないから使ってもいいよね」




「センサーマットは使い次第では行動抑制につながるよ」  
「目的をもって、利用することが大事なんだ！」

- ☆ショートステイでの使い方の検討
- ☆ご利用者ご家族への転倒リスクの説明、ケアへの協力依頼  
(ご利用者が生活している限り、転倒のリスクは必ずある、ということの説明)

17

## それで、結局、丸子の里では、センサーマットって“拘束”なの？



今までは、センサーマットを「拘束である」とは捉えていなかった。

しかし、今後は**“拘束”としてセンサーマットを捉えていけるように施設として努力していきたい。**

18